

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

### ドングリで遊ぼう

佐藤一枝 (千葉市)

日 時： 2011年10月2日 (日) 10:30~12:00 天気：曇り&晴れ

参加者： 14名 (大人11名・子ども3名)

担当指導員：岡田敬子・佐藤一枝

ちょっと一枚羽織ろうかなと感じる寒さでしたが、観察会が始まる頃は、暖かくなってきました。入口の広場で、大草いきものの里について、主旨・概要の説明、スズメバチや事故についての注意をする。ミニ作品を作成し展示してみましょ、と観察会開始。

まず、実物大の資料でアラカシ、シラカシ、クヌギ、コナラ、カシワを照らし合わせて見る。「広葉樹の殻斗は色々ありますが、常緑樹の殻斗は全部横縞ですね」と問いに、\*スダジイは殻斗が3つに裂け横縞ではなくさざ波、ウバメガシ・マテバシイは鱗状ですね。

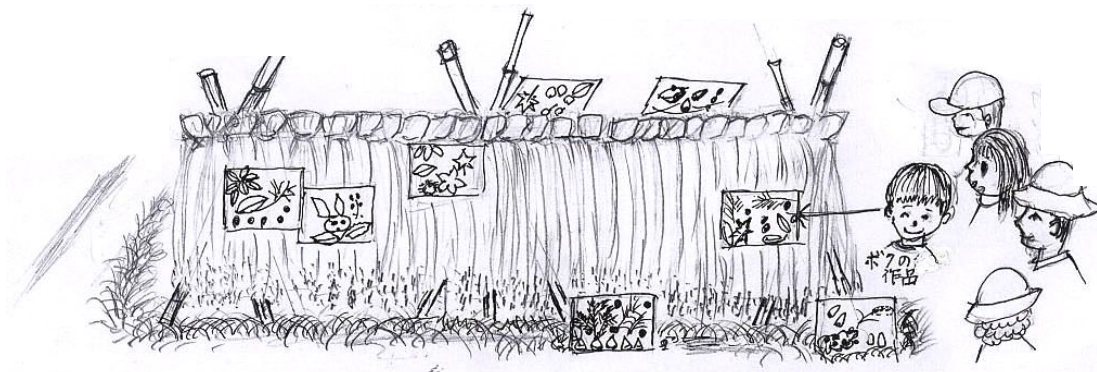


林縁のシラカシの観察。ドングリが沢山付いている、でも隣の木には付いていない??? どうして? 森の入口の

コナラの木の下には、去年のドングリが沢山落ちていて、木には・・・と目を凝らしても生っていません。\*台風などで花芽がやられたか“裏年”とかで、不作のようです。裏年---植物自体が内存的にもっている開花・結実の周期的変化です。実を結ぶのには大きなエネルギーが必要で、毎年はととてもできないのでしょうか、と話しながら森に入る。

薄暗い杉林を抜け台地に出るとノダケの赤紫の蕾、葉柄が面白いと写真を撮る人あり、シラヤマギク、キツネノマゴ、ヌスビトハギ、イノコズチ、アキノタムラソウ・ヒメキンミズヒキ---

山を下るとドングリをいち早く子どもが見つけた嬉しそう。大人も探すようにして拾い、ちょっぴりドングリ拾いが楽しめた。スギの色づいた葉、クマノミズキの赤い柄、ドングリ---を手を下りると目の前に谷津田が広がり、架掛された稲穂が並び---それは素晴らしく谷津田そのものが自然の美術館です。用意した材料とで作品作りを楽しみ“架掛けの稲と草道の小さな空間の美術館”に作品を飾り鑑賞しました。\*自然に溶け込む色にとダンボール (キャンバスにし)、掛紐はリボンではなくシュロ縄にしてみました。



・植物や昆虫のことをすぐ教えてもらえてよかったとの感想。参加者の皆さんは自然のままの大草谷津田を堪能されていました。指導員の皆さんのご協力により楽しいうちに終了しました。

反省：今年のドングリにこだわらず、折角去年のものがあるんだから、それで遊んだほうがよかったかな? 自然相手のテーマは難しいですね。